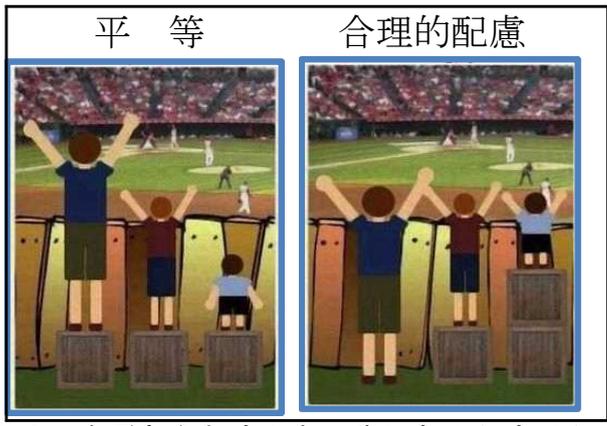


# くまもと障害者労働センター代表の倉田哲也さんの講話

9月6日(木)夕方RKKニュース JUST で倉田さんが美咲野小を訪問された様子が放送されました。6年生を対象にした講話です。

倉田さんの講話のテーマは「周りとの違いを恥ずかしがらないで～伝えたい大切なこと～」でした。「障がいって何だろう？」から始まりました。放送では、子どもたちの戸惑っている表情が、倉田さんの話を聞き、コミュニケーションをとる中で、だんだんわかり合っていく姿に変わっていくのがよくわかりました。6年部の先生たちが、倉田さんに講話をお願いしたのは、子どもたちの日々の生活の中で、相手を攻撃する言葉として「障がい」という言葉を使う場面があったり、いじめの状況がある時、『おかしい』と書いていても「おかしい」「それはいじめだよ」「やめなんよ」と言えない現状があったりするからです。子どもたちの中に「いけないとわかっているけども注意すると、自分がいじめられるかもしれない」という気持ちや、人と違うことを言えない空気があるのです。子どもたちは「障がい」がどんなことかも分からずに、人を下に見る言葉として使っているのです。これは6年生だけの問題ではありません。どの学年でもあることです。6年生以外にも倉田さんの話を聞かせたいと思ったし、保護者の皆さんにも知ってもらいたいと思いました。



左の図を使って『平等』と『合理的配慮』の違い」という話がありました。どちらがよいのか6年生に尋ねられると6年生は『合理的配慮』がよい」とすぐに答えました。次に先生たちに「もっとよくすることができませんか？」と尋ねられました。私はわかりませんが、ある子どもが「塀をガラスにすればみんなが見えます。」と言いました。子どもの力ってすごいです。

他にも心に残るたくさんの言葉がありました。倉田さんの言葉はどれも真実で本当にそうだと思うのだけど、私自身が頭でしか分かってないと思うことがいくつもありました。倉田さんにも子どもたちにもたくさんのことを教えてもらいました。

学校の敷地内をまわっていると、空のペットボトルやお菓子の袋など落ちています。いつか拾ったコーヒーの空き缶には、たばこの吸い殻が入っていましたよ。9月2日の愛校作業の時も空のペットボトル十本くらいが拾ってありました。私が美咲野小に赴任したH28年度「なんで美咲野は外掃除せん」と聞いて、当時の佐藤教頭が「ゴミは落ちていないから」と答えました。確かにその当時より、ゴミが増えていると思います。児童会や児童の環境美化委員会などに投げかけて、子どもたちに対策を考えてもらおうと考えています。前号の美咲野小だよりの「心温まるお話」の一つに、「公園で害虫のことを教えたお礼に、食べていたおやつをわけてもらった。」というエピソードを書きました。しかし、そのことで、学校にお叱りの電話があり、「子どもは、お菓子のカラをポイ捨てしてはいけません。学校に落ちてはいけません。大人も子どもも、みんなでゴミをきれいにしていきたいものです。」と、ゴミが捨ててあれば、また次のゴミが捨てられます。大人も子どもも、みんなで



NO.8  
H30. 9. 14  
大津町立  
美咲野小学校  
文責：草場ルミ子

学校の敷地内をまわっていると、空のペットボトルやお菓子の袋など落ちています。いつか拾ったコーヒーの空き缶には、たばこの吸い殻が入っていましたよ。9月2日の愛校作業の時も空のペットボトル十本くらいが拾ってありました。私が美咲野小に赴任したH28年度「なんで美咲野は外掃除せん」と聞いて、当時の佐藤教頭が「ゴミは落ちていないから」と答えました。確かにその当時より、ゴミが増えていると思います。児童会や児童の環境美化委員会などに投げかけて、子どもたちに対策を考えてもらおうと考えています。前号の美咲野小だよりの「心温まるお話」の一つに、「公園で害虫のことを教えたお礼に、食べていたおやつをわけてもらった。」というエピソードを書きました。しかし、そのことで、学校にお叱りの電話があり、「子どもは、お菓子のカラをポイ捨てしてはいけません。学校に落ちてはいけません。大人も子どもも、みんなでゴミをきれいにしていきたいものです。」と、ゴミが捨ててあれば、また次のゴミが捨てられます。大人も子どもも、みんなで

「障がい」は「不自由」  
だが「不幸」ではない  
「障がい」を「克服」するのではなく  
「障がい」者差別をなくしたい

人は「価値」の無い人間はいない  
存在その者が、尊敬すべき者である

「どうせ・・・」という言葉  
「せつかく・・・」という言葉に変える

保護者のみなさんは、我が子に人を見下す人になってほしいですか？やさしい言葉をかける人になってほしいですか？人をいじめる人になってほしいですか？助ける人になってほしいですか？皆さん、後者だと思います。私ももちろんそうです。みんなでそんな子どもたちを育てていきましょう。

「負ける」ことは終わ  
じゃない  
「あきらめる」  
ことが終わりのだ

あなたの一言が  
仲間を失う事がある  
あなたの一言が  
仲間を救う事がある

「違い」を恐れず、恥じず  
「自己責任」にしない。  
「互いに助け合える  
仲間を作ろう」

「誰でも、やりたいけれど一人ではできないこともたくさんあります。だから、周りの人に、自分の思いや願いを言葉で伝えることが大切です。みんなも先生も保護者の人も、人の悪いところばかり注意するのではなく、良いところを誉め合ひましょう。それが一人一人の自信につながるのです。決して周りとの違いを恥ずかしがらないで」という倉田さんのメッセージも心に染みます。

だいじょうぶ!! あなたは あなた たったひとりの大切な人!  
人と違っていいんだよ ~H29年度 熊本県人権メッセージ作品集より~

